「静と動」の両立を目指す vol.14

真岡市立図書館　データベース導入事例

真岡市立図書館

赤ちゃんタイム定着

図書館は静かに読書や勉強をする場所―というのが一般的なイメージですが、真岡市立図書館は、ここから一歩踏み込み、いろいろな人が集う「コミュニティの場」としての役割も大切にしています。船田均館長は「学生や大人には『静』の空間を、お子さん連れには遊び場としての『動』の空間を提供したい」と運営方針を語ります。

その具体化として2018年度から平日の午前10時から正午までを「赤ちゃんタイム」に設定。赤ちゃんが泣いてもかまわない環境づくりを進めてきました。今のところクレームは全くないとのこと。タイム内の火曜日午前10時から30分間は、外国人の先生による「英語の読み聞かせ」、金曜日午前11時から1時間は、図書館スタッフによる「絵本タイム」を設け、子育て世代のお母さんたちの交流の場になっています。

また、本離れがいわれる中高生向けのサービスとして、18年度から「15（いちご）コーナー」をつくりました。どんな本が読みたいかを書き込んで投函する「つぶやきカード」をもとに本をそろえ、中高生たちが自らつくるコーナーとして人気を呼んでいます。図書館を訪れにくい高齢者や障害者向けのサービスも充実。電話で申し込みを受け付け、職員が点字本やオーディオブックなどを宅配しています。

交流の場となっている絵本タイム

DBが自由研究に活躍

同図書館では読書週間のイベントとして、利用者の方々から「自由研究」を募る取り組みを始めました。子どもから大人までユニークな作品が集まりました。『下野新聞データベースplus日経テレコン』は19年4月に導入。「研究の下調べをするのに大いに活用していただきました。自分で調べてみるという活動のきっかけづくりになったようです」と船田館長。

中高生に人気の「15コーナー」

同図書館は4年後の移転を控えています。誰にでも親しんでもらえる図書館づくりに向けて、着実に準備が進んでいます。

下野新聞データベース

地域密着の栃木県内ニュースから国内外の経済情報を検索可能！

毎日150件以上更新／収録記事約110万件以上（下野新聞）

下野新聞が、国内最大級の会員制ビジネスデータベースサービス「日経テレコン」とのタイアップにより提供する「下野新聞データベースplus日経テレコン」。
下野新聞ならではの地域に密着したきめ細やかな記事と、国内外のダイナミックな動きを幅広く伝える日経各紙の記事を横断的に検索することができます。

地元密着の下野新聞、国内外の経済情報を網羅する日本経済新聞の情報を同時に検索

下野新聞データベース plus 日経テレコン

■お問い合わせ 下野新聞社デジタルメディア部 TEL028-625-1041（平日9:30-17:30）

下野　日経　検索

https://www.shimotsuke.co.jp/

下野新聞社

PR